



いのちを守る、暮らしを守る。

2017年6月5日 第64号

東京都議会議員
都議会公明党

遠藤守レポート

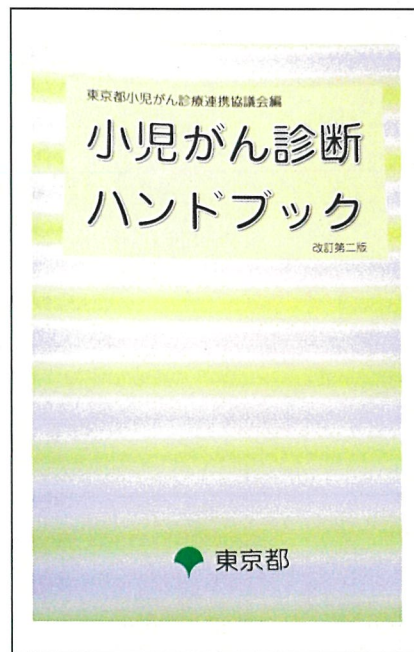
小児がんを克服し、元気に通学へ

全国初 診断ハンドブックが好評

小児がんを克服し、今春から小学校に入学し元気に通学しています――。

遠藤守都議の推進によって、現在、都内13の病院間でネットワークが整備され、患者情報の共有などにより医療体制が築かれています。2年前、検査で白血病を疑われたAちゃん(当時4歳)は、都が配布している診断ハンドブックによって、専門病院での受診につながり、小児がんであると診断されました。

その後、全身化学療法と、さい帯血移植を行い、完全寛解となりました。今年の春から、Aちゃんは小学校へ入学し、元気に通学をしています。



【小児がん診断ハンドブック】小児がん患者の診療や、療養環境を向上させ、緩和ケア・相談支援などを推進するため、全国で初めて都小児がん連携協議会が、2015年に作成しました。

現在、一般小児科を中心に、地域の診療所や病院に広く配布され、早期発見や治療の向上に役立ち、他の自治体からも大きな反響を呼んでいます。

都議会のミスターがん対策

遠藤守都議は、300人以上の患者や家族の声や実父をがんで亡くした経験を基に、都の放射線治療や緩和ケアの推進、都小児がん診療連携ネットワークなどを実現しました。今後は、患者が働き続けられる環境づくりや、思春期から若年世代(AYA世代)の支援にも全力を尽くす「都議会のミスターがん対策」です。